

2006.06.01

～渡航情報（スポット情報）～

（件名）

イラク：治安情勢

（内容）

1. イラクについては、これまでも危険情報において、全土に「退避を勧告します。渡航は延期してください。」を発出しており、スポット情報において累次にわたり、この「退避勧告」及びテロ・誘拐の脅威について注意を促しています。

イラクでは、引き続き治安組織や米軍、民間人等に対する攻撃や外国人誘拐等が相次いで発生しています。また、イラクにおいては、テロ事件に巻き込まれる可能性があるだけでなく、邦人を含む外国人がテロ・誘拐等の直接の対象となっていることに十分留意が必要です。

なお、イラク移行政府が発出した非常事態宣言の対象にはならなかった北部クルド地域においても、過去には大規模な自爆テロや拉致事件も発生していることに注意が必要です。

2. 最近、イラクで発生した主な事件等は、報道によれば以下のとおりです。

（1）5月25日

（イ）バグダッド北東部で、武装集団が燃料を運んでいたイラン人のトラック運転手2人を拉致しました。

（ロ）北部キルクークとティクリットを結ぶ道路上で、イラク・米合同軍車列を狙った爆弾が爆発し、イラク軍兵士1人が死亡、米軍兵士1人を含む4人が負傷しました。

（2）5月26日

（イ）バグダッド東部のナフダ地区で、古い家具や家事用品などを売っている屋外市場で自動車爆弾が爆発し、少なくとも8人が死亡、31人が負傷しました。

（ロ）北部キルクークで、道路脇の爆弾が爆発し、警官1人が死亡、4人が負傷しました。

（3）5月27日

（イ）中部バークーバで、この日までに、武装勢力が自動車のタイヤの修理やドア・窓枠の溶接を行う小規模な店舗1軒を攻撃し、作業員5人が死亡しました。

（ロ）バグダッド南部のドーラ地区で、混雑したバスターミナルの近くに止まっていた車の内部で爆弾が爆発し、少なくとも民間人4人が死亡、7人が負傷しました。

（4）5月28日

（イ）バグダッド中心部のタハリヤット広場で、爆弾2発が連続して爆発し、3人が死亡、21人が負傷しました。

（ロ）バグダッド南部のドーラ地区で、男性7人の遺体及び前日（27日）の夜に拉致された同地区の製油所で働く男女2人の遺体が発見されました。

（5）5月29日

（イ）バグダッド北方のハリースで、爆弾の爆発によって、イラクで活動する反イラン体制派組織ムジャーヒディーン・ハルク（イスラム人民戦士機構）の拠点で働く多数の労働者を乗せたバスが大破し、14人が死亡、17人が負傷しました。

（ロ）バグダッドで、道路脇に仕掛けられた爆弾が爆発し、車に乗って米軍に同行取材していた米CBSテレビのカメラマン1人と音声技術者1人の計2人が死亡、記者1人が負傷しました。

（ハ）バグダッドのイスラム教スンニー派地区で、自動車に仕掛けられた爆弾が爆発し、

子供を含む12人が死亡、24人が負傷しました。さらに、数分後に同地区で再び別の自動車爆弾が爆発し、5人が死亡、7人が負傷しました。

(6) 5月30日

(イ) 南部ヒッラの中心部で、自動車販売店近くで自動車を使った自爆テロが発生し、少なくとも12人が死亡、36人が負傷しました。

(ロ) 中部ムクダディーヤで、この日までに、イマーム・アウン聖廟(びょう)が爆破されました。

(7) 5月31日

(イ) 北部モースルのダワサ地区で、警察のパトロール隊が自動車爆弾の爆発に遭い、少なくとも警官5人が死亡、14人が負傷しました。

(ロ) 中部ムクダディーヤで、この日までに、市長府のエアコンに隠された爆弾が爆発し、スンニー派のイラク・イスラム党所属の市長が死亡、同市長の護衛3人が負傷しました。

(ハ) 31日、マーリキー首相は南部バスラに、1ヶ月間の非常事態宣言を発出しました。

3. 誘拐は上記2. のとおり、現在も発生しており、今後もその脅威は高いと考えられます。最近でも、欧米人を狙った誘拐事件も発生しています。これまでに発生した事件の犯行主体は、テロ活動を行う武装勢力に限らず様々です。また、犯罪組織の関与も疑われており、各所に内通者がいることも考えられます。誘拐を行う動機も一様ではありませんが、外国人・イラク人であるかを問わず誘拐される事例が多発しており、特に邦人を含む外国人の存在がこれらの組織に知られた場合には、計画的かつ巧妙な形で誘拐が実行される例も見られます。また、たとえ警護があっても、人数等で警護を圧倒し拉致が実行される例があるほか、これまでに起きた事件の中には、武装集団が事務所や住居に侵入した上で誘拐するといった強硬な手口による事例もあります。

4. 以上の状況を踏まえ、依然としてテロ・誘拐等が各地で多発していることに十分留意し、イラクに渡航することは、どのような目的であれ絶対に見合わせることを、また、既にイラクに滞在されている方は、本スポット情報の内容にも留意し、最新の情報の入手に努め、十分な警備措置を講じた上で直ちに同国から退避されるよう改めて強く勧告します。

(問い合わせ先等)

○外務省領事局邦人テロ対策室(テロ・誘拐に関する問い合わせ)

電話:(代表) 03-3580-3311 (内線) 3680

○外務省領事局海外邦人安全課(テロ・誘拐に関する問い合わせを除く)

電話:(代表) 03-3580-3311 (内線) 5139

○外務省海外安全相談センター(国別安全情報等)

電話:(代表) 03-3580-3311 (内線) 2903

○外務省海外安全ホームページ:<http://www.mofa.go.jp/anzen/>

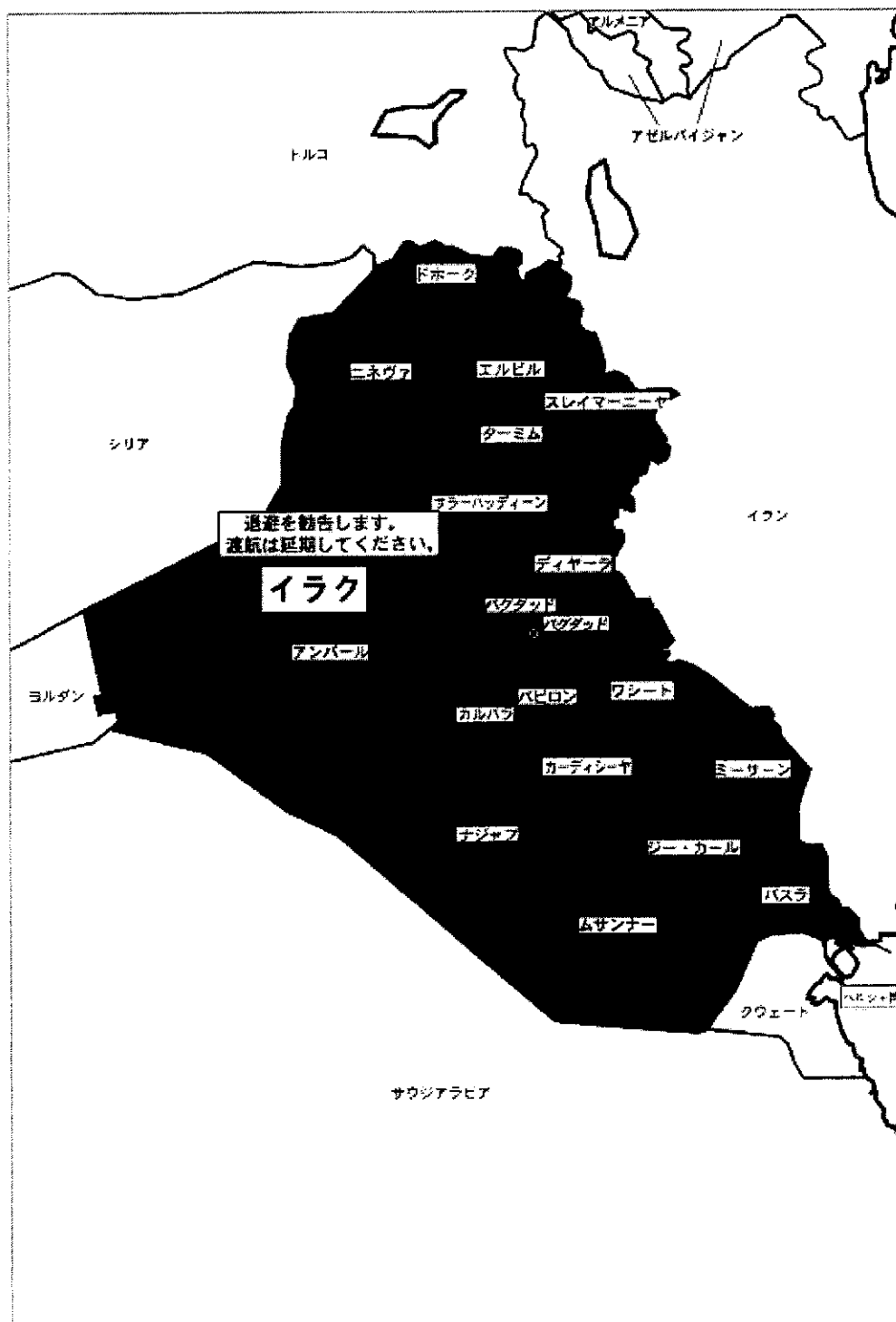
○在イラク日本国大使館

電話:(873-761) 213234(衛星電話)

FAX:(873-761) 213235(衛星電話回線)

イラクに対する渡航情報(危険情報)の発出

●全土:「退避を勧告します。渡航は延期してください。」(継続)
イラクにおいては、日本人に対する襲撃事件や人質殺害事件が発生しています。



凡例: 「退避を勧告します。渡航は延期してください。」
 「渡航の延期をおすすめします。」
 「渡航の是非を検討してください。」
 「十分注意してください。」

閉じる